

令和元年6月6日現在

機関番号：62608

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2018

課題番号：15K02284

研究課題名(和文) 近世歌合の総合的調査・研究

研究課題名(英文) A Comprehensive Study of Uta-awase in the Edo Period

研究代表者

神作 研一 (KANSAKU, Ken-ichi)

国文学研究資料館・研究部・教授

研究者番号：30267893

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：4年間にわたった本研究の柱は二つ、一つは近世歌合伝本書目の編纂であり、もう一つは近世歌合の全容の把握ならびに主要歌合の注釈的研究であった。前者についてはおおむね計画した通りの書誌データを集積し、後者については神作研一「近世歌合の諸問題(仮)」(龍谷大学仏教文化研究所指定研究「龍谷大学図書館蔵蘆庵本歌合集の研究」の研究成果物に「解説」の1本として収載、2019年度に刊行予定)なる小論ほかをものした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

江戸時代の人びとにとって和歌は、学べき教養であり、身につけるべきインテリジェンスであった。彼らの手本は公家たちだったが、時代が下るにつれて派閥の領袖が現れ、やがて一門の中で研鑽を積む手段として歌合が隆盛することとなった。歌合は、江戸前期の堂上ではさほど行われず、江戸中期以降の地下において盛行し、それは専ら写本で流通したのだった。江戸は出版の時代だが、伝存の多い写本を丹念に調査してゆくことも重要である。

研究成果の概要(英文)：The main themes of this research over the four years are two. One was the compilation of a catalogue of denpon (surviving successive reproductions till now) related to uta-awase (poetry contests) during the Pre-modern era. The other was the study of the entire contents of uta-awase and the explanatory study of major uta-awase during the Pre-modern era. Regarding the former, bibliographic data has been generally collected as planned. And regarding the latter, I wrote several essays including "Kinsei uta-awase no shomondai" (tentative title) by Kansaku Ken'ichi which was requested by Research Institute for Buddhist Culture at Ryukoku University. This essay will be included in the research results "Ryukoku daigaku toshokan zo Roan-bon uta-awase shu no kenkyu as an "Explanatory note". The research results will be published within 2019.

研究分野：日本文学

キーワード：歌合 江戸時代 判詞

## 1. 研究開始当初の背景

この四半世紀の間に、近世和歌の研究は飛躍的に進展した。特に堂上和歌の重要性が学界で広く認識され、その結果、堂上・地下を問わず、歌人に対する個別の研究も伝記研究を軸としてかなり進んだのだと確言できる。しかしながら、本来の和歌研究がめざすべき和歌そのものの歴史的評価、すなわち最も肝心な「作品そのものの評価」に関しては、依然として大きな進展が見られないのが現状である。

彼らは日頃、それぞれが所属する流派・結社の中で歌合や歌会を通じて互いに稽古を重ねていたのだが、家集や撰集に比べると、歌合と歌会に関する研究はほとんど手つかずの状態である(例えば、『新編国歌大観』にも近世の歌合は一点たりとも収められていない)。歌会資料は(御会和歌を除けば)伝存しないことのほうが多いから致し方ないが、歌合資料は刊写取り混ぜて相当数が残存している。ついては、今は、江戸時代に大量に編まれた歌合を収集・整理・分類し、その読解を通して、近世歌人の歌道精進の具体相と表現の種々相そして和歌観を丁寧に引き出したいと考える。以て、近世和歌史・文学史への新たな視座を獲得することがねらいである。

## 2. 研究の目的

研究の期間を4年と設定し、江戸時代における歌合を総合的に調査・研究するために、主に次の2点を掲げた。

### (1) 近世歌合伝本書目の編纂

既刊の『平安朝歌合大成』(同朋舎出版、増補新訂半1995)と『中世歌合伝本書目』(明治書院、1991)の編纂方法を批判的に摂取し、それを生かしつつ近世歌合の伝本情報を集約蓄積していく。これはいわば、研究を順調に推進していく上での基盤データの構築にほかならない。

### (2) 近世歌合の全容把握と主要歌合の注釈的研究

基礎データの集積を踏まえて、江戸期全体における近世歌合の特徴・特質を把握するとともに、主要歌合の注釈的研究を行う。

## 3. 研究の方法

目的達成のための具体的な方法は以下の通りで、(1)と(2)を適宜バランスをとりながら進める。

### (1) 近世歌合伝本書目の編纂

質量ともに近世歌合の刊本および写本に恵まれた諸機関や文庫において、関係文献の書誌調査・データ収集を行う。また、全国の文献の収集を蓄積している人間文化研究機構国文学研究資料館に所蔵されているマイクロフィルム・デジタルデータを調査することで、上記の作業を補完させたい。原本(古典籍)の購入による収集も積極的に進める。また、可能な範囲で個人蔵資料についても調査を実施する。

### (2) 近世歌合の全容把握と主要歌合の注釈的研究

近世歌合にはどのような特徴があるのか、そしてそれは前代までの歌合と比べてどのような違いが認められるのか。これらのことどもを、基礎データの集積を踏まえて粘り強く追求するとともに、主要作品に関して、精度の高い注釈的研究を進めたいと考えている。

## 4. 研究成果

4年間にわたった本研究の柱は二つ、一つは近世歌合伝本書目の編纂であり、もう一つは近世歌合の全容の把握ならびに主要歌合の注釈的研究であった。その研究成果を、以下、3つの項目に分けて摘記する。

### (1) 研究論文

研究論文としては4本を公表した。そのうちの1印を付した1本は英文で綴った。「歌合部類 国文学研究資料館の収蔵品(38)」(『文部科学教育通信』384号、2016)、「香川黄中の位置」(飯倉洋一・盛田帝子編『文化史のなかの光格天皇 朝儀復興を支えた文芸ネットワーク』所収、勉誠出版、2018)、「Corrections of Waka Poems in the Genroku Era」(『国文学研究資料館紀要(文学研究篇)』45号、人間文化研究機構国文学研究資料館、2019)、「近世歌合の諸問題」(安井重雄編『龍谷大学図書館蔵蘆庵本歌合集の研究』所収、2019年度刊行予定)がそれである。

『文部科学教育通信』への寄稿には、社会に対する学術的成果の公表という意味があり、英

文による研究論文の公表は、研究の国際的展開を強く意識したものである。

江戸期の特質として、歌合が堂上ではほとんど行われていないこと、江戸中期以降、地下において隆盛を見る（褒貶歌会あるいは衆議判の歌合をとることも多い）こと、鈴門や桂園派など江戸後期の国学派においては、派閥の領袖の和歌観・作法を知るために判詞の集成とその精読が欠かせないことなどを確認することとなった。

## (2) 原本の収集

伝本書目に関しては、未見の資料も相応に残されているので、今後も粘り強く調査を継続させたいが、ひとまずこの4年間でその礎を築くことができた。元禄6年(1693)刊の『歌合』(大本1冊)ほか、伝本ごく稀の原本(古典籍)を、僅かながら収集することができたことも添記しておく。

## (3) 今後への展望

調査を進めていく過程で、想像以上に歌合写本の伝存数が多いことを実感するに至った。これは、和歌という文芸の性質あるいは伝統によるものとも考えられる。これまでは歌書の刊本に軸足を置いて調査研究を進めてきたが、今後は、写本についてもいっそうの探究が必要だと認識している。

## 5. 主な発表論文

### 〔雑誌論文〕(計4件)

神作研一 「近世歌合の諸問題」(安井重雄編『龍谷大学図書館蔵蘆庵本歌合集の研究』所収)  
\*2019年度刊行予定 \*査読なし

KANSAKU Ken-ichi 「Corrections of Waka Poems in the Genroku Era」(『国文学研究資料館紀要(文学研究篇)』45号、人間文化研究機構国文学研究資料館、2019、左11-46頁) \*査読なし

神作研一 「香川黄中の位置」(飯倉洋一・盛田帝子編『文化史のなかの光格天皇 朝儀復興を支えた文芸ネットワーク』所収、勉誠出版、2018、127-153頁) \*査読なし

神作研一 「歌合部類 国文学研究資料館の収蔵品(38)」(『文部科学教育通信』384号、2016、1頁のみ) \*査読なし

### 〔学会発表〕(計1件)

神作研一 「古義堂の歌人 恵藤一雄について」(ハイデルベルク写本版本国際集会2017、2017年3月8日、ドイツ・ハイデルベルク大学) \*国際学会

### 〔図書〕(計0件)

### 〔その他〕(計1件)

神作研一 「近世歌合の諸問題」(龍谷大学仏教文化研究所研究談話会、2017年10月27日、於龍谷大学大宮校舎)

### 〔産業財産権〕

#### 出願状況(計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年：  
国内外の別：

#### 取得状況(計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：

取得年：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等 なし

6．研究組織  
研究代表者 神作 研一 (KANSAKU Ken-ichi)  
国文学研究資料館・研究部・教授  
研究者番号：30267893

(1)研究分担者 なし

(2)研究協力者 なし